

第1学年 国語科の実践

- 1 単元名 おはなしをつくろう『音』をさがしておはなしづくり(全9時間 本時5時間目)
- 2 単元目標
 - ・「音」を表す言葉を探して想像を広げ、お話を作ることができる。
- 3 「ひびきあう三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題・・・子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手だて・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ 感じる心・素直に表現する自分
・人の言動に何かを感じる姿・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

〈話す・聴く〉

どの子も友達の話に興味を持ったり、楽しんで聞いたりすることができている。話す時は友達の方を向いて話をしたり、みんなに聞こえる声で発表したりするよう声をかけている。朝の会では簡単なスピーチ活動を行い、全員がクラスの前で話す機会を設けてきた。言えないときは、教師や友達と休み時間に練習をして、発表するようにした。またペアトークも取り入れるようにし、どの子も自分の考えを話したり聞いたりする練習をしている。ペアで話した内容をそのまま発表することで、どのようにペアで話したらよいか、二人で話す時の反応の仕方なども学習した。また、意見を発表する場面では友達と似ていれば、そこに自分の名前プレートを置くなどして自分の意見をみんなに伝えられるようにしてきた。少しずつ自分の考えの意思表示が出来るようになってきている。

クラスの「話す・聞く」を考えた際には「姿勢良く・話している人に体も心も向けて・反応しながら・最後まで聞く」という意見が出た。意見をまとめて前に大きく掲示しており、自分の聞き方はいかがか振り返ることができるようにしている。そのため、体を向けてうなずいたり、反応したりできるようになってきた児童が増えてきている。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

4月当初に比べ、どの子も周りを見ることができるようになり、いろいろな友達と遊びたい、関わりたいという思いを持つようになった。クラスみんなで経験した運動会やドッジボール大会がきっかけとなっており、「クラスのみんなと協力したい。力を合わせると楽しい。」という気持ちが強くなっている。

さまざまな行事活動の中で、特に2年生や6年生との関わりが強く、一緒に遊んでもらったり、お世話をしてもらったりしている。「かっこいい6年生のようになりたい。」「自分達も2年生の真似をしてやってみようよ。」「お世話になってきたからありがとうの気持ちを伝えたい。」という思いを強く持つようになった。後期に入ってから、「自分達にできることは何だろう。」「もっとこんなことをしてみたい。」という気持ちで学習や活動に取り組む様子が見られるようになってきた。身近にお手本となる人がいることで、子ども達の活動に広がりが見えてきている。

国語の詩の学習では、一人ずつ詩を作った。「野菜のおしりが黒いから、やけどをしたのかな。」「真っ白な大根、町に行ってお化粧したのかも。」という言葉に「そういう感じ方もあるんだ。」「想像して書いてみるのは、おもしろいね。」「ぼくも真似してみよう。」と反応する姿が見られた。「言葉」をつなげたり、広げたり、深めたりしながら関わり合うことのよさに気づき始めたところである。少しずつ、お互いに「伝えたい。」「関わりたい。」と思えるように学習を進めていきたい。

4 単元と指導について

〈単元について〉

『音』をさがしておはなしづくりは、擬声語・擬態語に関心を持ち、創造活動を楽しみながらお話を作る単元である。擬声語・擬態語は生活の中でよく耳にし、子ども達の表現手段としては身近なものである。これまでに平仮名、片仮名を習得し、それを使って文を作る活動を楽しんできた子どもたちにとって、親しみやすい学習であると考え。擬声語や擬態語にはイメージを膨らませる力があり、今まで学習した詩の音読でも「ぽかぽか」「きらきら」「ぐつぐつ」などの言葉に着目してきた。そうした擬声語や擬態語の様子を身振り手振りで表しながら、楽しく音読している子ども達の様子が見られた。擬声語・擬態語等の表現を学ぶ中で、「音」を言葉で表すことの楽しさを感じるとともに、言葉の広がりが見えてくると考える。

1年生の「書くこと」では「経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる」ことが目標となっている。本単元は絵の中から想像を膨らませることで、文を書くことが難しい子も書きたいと思えるように

したい。言語活動の基盤となる「音の言葉」集めを共有することで、どの子も意欲を持って取り組める単元である。そして言葉には多様な表現があることを知り、楽しんでお話作りを進めていけるだろうと考える。

〈指導について〉

子どもたちは4月から様々な言葉と触れ合ってきた。ひらがなの練習に始まり、物語文、説明文、詩、はがきの書き方、絵日記の書き方などである。また、詩を読んだり物語を読んだりする中で、言葉のおもしろさや楽しさに触れてきた。学習のたびに新しい言葉に触れ、理解してきているが、1年生はまだ語彙も少なく、文章を書いた時に詳しい動作や様子、さらに自分の思いや考えたことを言葉にして使うことは難しい。本単元では言葉のおもしろさに気づけるようにするとともに、語彙を増やし、言葉を使う力を身につけることができるようにしていきたい。

そこで導入として、3つの絵を用いて簡単な文を作り、それをつなげてお話づくりをしていく。周りに意識が向いてきた子も増えてきたが、まだまだどの子も「自分を見てほしい。」「自分を認めてもらいたい。」という気持ちを強く持っている。そのため、お話を作っていくと、「上手に出来た。」「誰かに作ったお話を聞いてほしい。」という思いを持つであろう。そうした思いを大切にしたい。聞いてもらいたい相手はクラスの友達やおうちの人、今までお世話になってきた先生、2年生、6年生などが挙げられると考える。相手に思いを伝える楽しさ、発表し合い評価される喜びを感じられるようにする中で、徐々に進んで「書きたい。」という思いを持てるようにしていきたい。表現する楽しさを感じられるようにすることが、「よりよく表現したい。」という思いにつながっていくと考える。

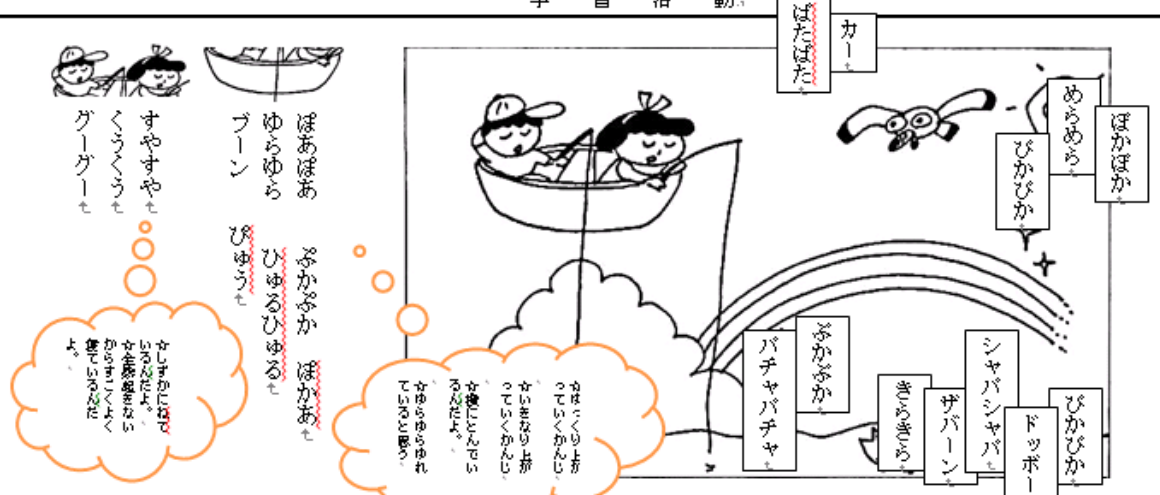
本単元では、よりよくするための工夫の一つとして擬声語・擬態語を使って表現している児童を取り上げていきたい。生活経験の違いなどで獲得言語の数に大きく差があるため、同じ環境の中での「音」探しを行う。すると今までは「音」だと思わずに使っていた言葉や、聞いたことがあっても使ったことのない言葉があることに気付くと考え。その中で子どもたちが気づいた、実際に聞こえる「音の言葉」と様子を表す「音の言葉」を、クラス全体で共有し、共通の土台としたい。

学習をしていく中で友達の見つけた「音の言葉」や新たな表現に出会って、「上手に使ってみたい。」という思いを持つであろう。その「音の言葉」を使い、お話を作っていく。本時では友達の見つけた「音の言葉」を聞き、それを参考にしながら進んで「音の言葉」を使ってお話を書こうとする姿をひびき合う姿としたい。

5 単元構想（次頁参照）

6 本時について

- (1) 本時目標 音を表す言葉を交流し、創造活動を楽しみながらお話をつくる。
- (2) 本時展開

学 習 活 動	
	いろいろな「音」をきいて おもしろいおはなしをつくらう
主な交流・留意点	◆評価【観点】
◆音を表す言葉の意見交流を通して、音の言葉を使ったお話をすることが出来る。【書く】	○学習した一場面の絵を提示しておき、振り返る。（本時の活動に見通しを持てるようにする。） ○見つけた音を紹介し合う。 似ている意見からつなげ、いろいろな「音」に気づけるようにする。 同じものでも人によってちがう「音」で表していることに気づいた児童を取り上げる。 気づかなければ教師が比較して気づけるようにする。 ○音を身体で表現してみる。 ☆「すやすや」「うとうと」「グーグー」 ☆「ふわあん」 ☆「ふわふわ」 「ゆらゆら」 「びゅっ」 「ひゅー」 等舟が昇っていく様子を取り上げ、どんな違いがあるか、実際に持ち上げたり、動かしたり、言葉で説明したりすることである。音の言葉があり、違いがあることを共有する。 ○いろいろな表現があることを確認する。 ○真似してみたい、使ってみたい音を見つけ、お話をつくる。

5 単元構想「音をさがしておはなしづくり」 全9時間中 本時5時間目

単元のねらい

「音」を表す言葉を探して想像を広げ、お話をつくることができる。

⇒⇒これまでの学習⇒⇒

五感(目・耳・口・鼻・手)や心で感じたことを書けるようになる。

『まてまて かえるくん』お話をつくらう
かえるくんが主人公のお話をつくったよ！
男の子を主人公にしてみたよ！
いろいろなお話ができだね。
みんなのお話もおもしろいね。お話作り楽しいな

『ころがうごいたこと』詩をかこう
何を書こうかな…。
おもしろい形のこと、色のこと…
こんな音が聞こえたよ。
想像したことを入れると楽しいね。

『文をつくらう』文をつなげてお話づくり
「何がどうする。」外へ出かけて文を見つけてみたい！
「何はどんなだ。」
お話を書いてみよう。途中でおもしろいことがあると、
楽しいお話になるよ。
想像したことを入れてみたよ。

主語・述語の基本文型を知り、主述の整った文を書く。【書く】

文を書くとおもしろいね！ もっと長い文章も書けるかも！

お話づくりの学習に関心を持ち、見通しを持つ。【関心】

お話をつくろう ①

おもしろいお話にしよう！
お話しするのは、楽しいな！
難しいよ。
どんなことを書けばいいの？

できたよ！読んで！聞いて！
(先生、友達、幼稚園、6年生、……)
もっと作りたい！

もっとたくさん文を書きたかったな。
友達のお話を聞いて
真似すればいいんじゃない？

みんなはどんなお話書いたの？
クラスのみんなで読み合いたいな。

お話を読みあひっこしよう ②

○音が入っているとおもしろいよ！わかりやすいな。
パッシャー、ポチャン、パチャン、パチャツ、パチャツ
すやすや、うとうと

たくさんあるね！音っておもしろいな。
もっとたくさんあるよ！外にもたくさんありそう。
探しに行こうよ！

○話し言葉がおもしろいね。
そんな風に話しているんだ！
↓
句読点(、)の使い方の復習
「 かぎかっこ の使い方

○きれいな字でいいね。
読みやすいね。
↓
書写の学習

どんな音があるか、さがしにいこう ③

★音

- ・水たまりがピチャピチャ
- ・飛行機がキーン
- ・木がザワザワ
- ・車がブーン
- ・自転車がチリンチリン
- ・落ち葉がカサカサ
- ・歩くとザッザッ

★音のような言葉

- ・砂がさらさら
- ・太陽がきらきら、ぴかぴか
- ・走ってどきどき
- ・葉っぱがくるくる

- ・チェーンライマーがゆらゆら
- ・みんながにこにこ
- ・くもがもくもく

擬声語・擬態語をもとにしたお話づくり
を楽しむとしている。【関心】

たくさん見つかったよ！
音って楽しいね！わかりやすいよ。

音の言葉をつかってお話をつくらう ④⑤本時⑥

「音ことば」がたくさん使えそうだよ！
絵の中からいっぱい見つけたよ！
ぼくはこんな「音」が聞こえてくるよ。聞いて！
みんなはどんな「音」を見つけたのかな？

集めた言葉を掲示しておき、困っている
児童の手助けとなるようにする。

体や心から聞こえる音を使って、想像したことをもとに簡
単なお話を書く。【書く】



同じものでも書いた「音」がちがうね。
そんな「音」もあるんだ。
なるほど、それもあるね！
その「音」おもしろいなあ。
音ってたくさんあるんだね！

みんなの見つけた音を使ったらおもしろいお話が書けそう。

お話をつなげて、題名を作ろう ⑦

このあとどうなるかな？続きを書きたいな。
お話を読んでみよう！ つなが言葉が必要だね。どんな言葉がいるの？
そして／それから／つぎに／すると／とつぜん／だから など
どんな題名にしよう？

お話を読む練習をしよう ⑧

一緒に練習しよう。 つつかえずに読めるようになりたいな。
気持ちをこめて読んで上手だなあ。 真似してみようかな。

聞いてもらおう！ ⑨

語や文のつながりがよりよくなるよう、書き直している。【書く】

上手に読みたいな。聞いてもらおう！みんなで練習しようよ！

7 実践を終えて

(1)子どもとどのように単元を作ってきたか(本時まで)

本単元までに、子どもたちは自分で考えたお話を読んだり、詩を作ったり、文を作ったりする学習をしてきている。詩を作る学習ではいろいろな友達の作品に触れ、想像を広げて詩にすると、楽しくておもしろい詩になるということに、気づいた。また、主語述語を使って文を作る学習では、外に出かけてたくさんの言葉を見つけ、それをつなげて文を作ることができた。どの子も「文を書くのは楽しい。」「もっと作れそうだな。」という思いを持って、本単元の「もっと文を書いてみたい。」という導入へと繋がっていった。

単元の導入で三つの絵を見てお話作りをしていくと、おもしろいお話が書けたから、読んでほしいという子と、難しくて書けそうにないという子に分かれた。書けないと悩んでいた子も素直に自分の気持ちを表現したので、周りの友達から「そういうときは、みんなのお話を読んで真似すればいいんじゃない？」と提案があった。そんな中で、友達のお話を読み合うことで、お話をおもしろくする工夫をお互いに見つけられるようになってきた。友達の作品を読んだ際、登場人物に注目した子、話し言葉に注目した子、字の丁寧さに注目した子などさまざまにいたが、その中でも音に着目して読んだ子をピックアップした。2枚目の絵で男の子が水に入ってしまった時の音を、「バッシューン」「ボチャン」「パチャッ」と表した子、3枚目の絵で男の子が眠っている様子を「すやすや」「うとうと」と表した子がいたので取り上げた。動作を交えながら考えることで、同じ音であっても言葉によってその様子が全く違うことに気づくことができた。さらに外へ音の言葉を探しに行くことでいろいろな音があることに気づいてきた。そうした音の言葉集めをしていく中で、新しい3コマ漫画の1枚目を提示した。その中からいろいろな言葉を見つけ、交流し合い、その音を使ってお話作りをしていくことが出来た。友達の音を使ってお話作りをしている子もあり、本時の「いろいろな音をきいて、おはなしをつくらう」の学習問題へと繋がっていった。

(2)本時での様子、今後の課題について

<成果>

本時ではいろいろな音の言葉を共有し合い、動作を交えながら言葉のイメージを膨らませていった。前時に絵の中で自分の見つけた音を書いたが、それぞれが自分なりの音の言葉のイメージを持って話し合いに参加できていた。「この音はこんな感じだと思うよ。」と、自分の言葉や動作も交えながら、自分の思いや考えを話すことができた。友達の意見に対しても、「ああ、なるほど。」「〇〇さんと似ている!」「それってどういうこと?」「おもしろいね。」等、話型を使いながらも素直に反応する姿が見られた。

舟の具体物を操作することでは、お互いの持っている音の言葉のイメージを共有する良い機会となった。それぞれの出した、「舟がゆらゆら」「ふわふわ」「ぷかぷか」などの言葉の違いに気づくことが出来た。また、同じ「ふわふわ」でも上に上がっていく感じがする子と、横に移動していく様子だという子がおり、「どちらもおもしろいね。」と色々な表現を認める姿が見られた。

<課題>

お話作りでは、子どもたちがお話の中に「音の言葉」を生かしきれていなかったことに課題が残った。

本時では見つけた音の言葉をいくつか出し終えてから、音の言葉のイメージについて話し合った。そのため、本時の中で取り上げられなかった言葉もあった。たとえば舟が「ぶーん」と発表した子がおり、発表と同時に「ぶーん、ってなに? どういうこと?」という子どもの反応があった。後で「気になる言葉はあるか?」という発問をしたが、「ぶーん」という言葉は出てこず、本時の中で話し合うことはなかった。特に低学年では、「どういうことだろう。」という率直な気持ちが、時間がたつと薄れてしまったり、忘れてしまったりすることが多い。疑問に感じたり、不思議に思ったりした瞬間を教師がとらえ、その時々の子どもの言葉で立ち止まる必要があるであった。そうすれば、さらに色々な音の言葉のイメージを捉え、その背景にあるストーリーにも着目できたであろう。

動作を入れたところでは、一人ひとりがそれぞれの音の言葉のイメージを持つことが出来た。さらに『ふわふわ』だから『すやすや』眠っているんじゃないかな。」といった子どもの発言に立ち止まり、一つひとつの言葉をつなげ、心情にも触れていくための教師の問いかけがあるとよかった。子どもの言葉で立ち止まることで、より友達の意見を理解し、自分のお話作りにも生かしていったと考える。

音の言葉を使うよさに気づいたが、自分のストーリーの中に効果的に組み入れる作業が難しい子もいた。そのため、まずお話作りをすること、つぎに音を使うことなどお話作りをする手順を子ども達に提示しておくことでどの子も、より安心して楽しくお話作りができたであろう。また、お話のつながりを意識させるためには、一度全部の場面をはじめに見せておくことも考えられる。単元構想の段階では、絵に出会ったときの喜びや驚きを大切にしたいのだが、一度全部見せることによって、お話作りの際につながりを感じながらお話を書くことができるという利点もあった。ストーリーを大切にしながらも、「音の言葉」を意識してお話を書くことが出来るようにしたい。